

2015年7月

ロシア視察報告にあたりまして “エカテリンブルク 巡礼の旅に参加”

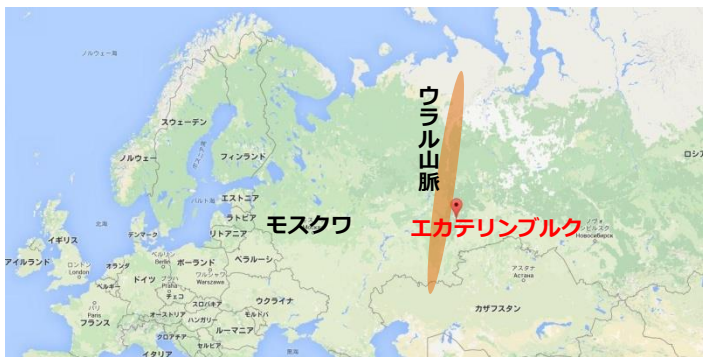
鹿児島市に拠点を置く、私共「薩露交流促進協議会」では、2015年7月17日、ロシアのエカテリンブルク市にて行われた「十字行」に、有志の皆様を含め7人で参加してまいりました。

この「十字行」は、私共薩摩の島津忠義公と深い友情で結ばれた、ニコライ2世及び一家を偲ぶもので、約24キロを巡行するロシア最大の慣例行事です。鹿児島で例年開催される「妙円寺詣り」と通じるものがあります。今年は、約6万人の参加者となりました。

ロシア革命により、子供5人を含めた7人の皇帝一家が銃殺された場所から墓所までを、賛美歌を歌いながら巡礼の行進が続きます。今年は、時折、霧雨降りしきる天候ではありましたが、老若男女、整然と穏やかな表情でひたすら目的地に向かって、歩き続けます。

私共、「7人のサムライ」は、妙円寺詣り版、薩摩武士装束にて参加致しました。この巡行に参加した最大の理由は、島津忠義公とニコライ皇太子との間にあった信頼、友情、それにより大津事件という国難を回避できた歴史的事実、大きな感銘を受けたからです。

エカテリンブルク



ウラル山脈の東側にある、ウラル地方の中心地。人口130万。
ロシア国内ではニジニ・ノヴゴロドに次ぐ5番目に人口の多い都市。

エリツィン大統領の出身地。

マヨネーズ消費量世界一。ギネスブックにも記載されている。

ニコライ2世一家はウラル・ソビエト執行委員会の決定により、1918年7月16日から17日にかけての夜、エカテリンブルク イパチェフ館(現在、血の上の救世主教会) 地下室で銃殺された。

7月半ばともなれば、皇帝一家を記念する長時間の晩禱に参列するために、多くの巡礼者が集まってくる。晩禱は、エカテリンブルクから約24kmのところにあるガニナ・ヤマまでの十字架行進で終わるのが通例。ここは一家と召使たちが処刑後に埋められた場所と推定されている。



イパチェフ館



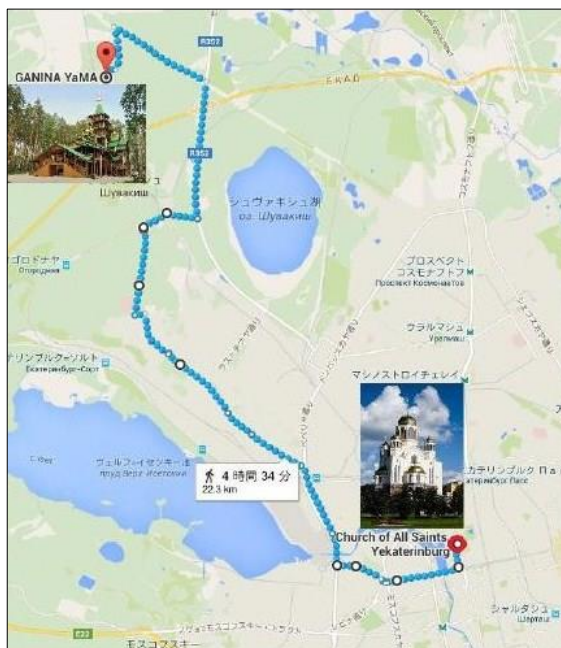
血の上の救世主教会



ガニナ・ヤマ

「ニコライ2世の十字行」

十字行とはニコライ2世一家を偲ぶ巡行



- 開催日時：2015年7月17日（金）
- 開催場所：ロシア エカテリンブルク
- ★出発地：血の上の救世主教会
- ★出発時刻：深夜3時
- ★所要時間：約4時間
- ★到着地：ガニナ・ヤマ
- ★総距離：約24km
- ★参加者：約60,000人

お陰様で、地元の方々の歓迎も驚くほどで、国営ロシアメディアを含め、「薩摩サムライ」について連日大きく報道され、大変脚光を浴びることになりました。テレビ局11社、新聞社38社、約50社のロシアのメディアで取り上げられ、「薩摩、島津、サムライ」の言葉が、多くのロシア国民にも広く宣伝されることとなりました。

「鹿児島、薩摩PR」という私共の目的どころか想定外の反響となりました。ロシア国民も、日本の「薩摩」に改めて深い関心を寄せたと思います。私共といたしましては、島津忠義公とニコライ皇太子の深い友情を大事に、薩摩とロシアの「心の文化交流」促進に向け、民間レベルではありますが、今後とも精進努力してまいりますので、ご指導、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

【「薩露交流促進協議会」事務局】